

近代都市祭礼における神輿巡行と山車巡行の分離過程 宇野功一

千葉県佐原市新宿の諏訪祭礼を例に

The Separating Process of the Portable Shrine Parade and the Float Parade in an Urban Festival during the Modern Period: on the Case of the Suwa-Festival in Shinjuku of Sawara City, Chiba

はじめに

- ①江戸時代の諏訪祭礼
②近代の諏訪祭礼

むすび

◎附録
『幣臺規則並割合帳』

[譜文解説]

本稿は、千葉県佐原市新宿地区でおこなわれている諏訪祭礼における神輿巡行と山車巡行の分離過程を詳細に跡付けたものである。そのさい、運営方法の変化と祭礼中の個々の行事の内容の変化を中心記述をおこなった。

まず、天保年間（一八三〇～一八四三）ころの諏訪祭礼の運営方法と行事内容を明らかにした。それによれば、このころの諏訪祭礼の神輿の還幸においては、新宿各町から出される山車を中心とした練り物行列が神輿行列を先導し、両行列が連続して一つの祭礼行列を構成していたことを確認した。さらに祭礼の監督は関戸町という町が毎年独占的にこれを勤めていたことも確認した。

ついで、明治九（一八七六）年から昭和三四（一九五九）年にかけて、新宿各町が順番に書き継いだ「幣臺規則並割合帳」という記録を検討した（この記録は「附録」として本稿の末尾に収録）。この記録によると、明治初期に関戸町による祭礼監督の

独占が崩れ、各町がそれぞれ交替で神輿巡行と山車巡行を監督する年番制度が確立された。同じころに練り物のほとんどが山車になつたため、練り物行列は山車行列に特化し、それは肥大化しそぎたため巡行に時間がかかりすぎるようになり、神輿行列の先導を勤めづらくなつた。

その結果、各町では神輿行列の先導ができるだけ厳格に勤めつつも祭礼期間内に山車巡行を終えるという相矛盾する目標を果たすために、さまざまな努力と工夫を重ねた。近代の諏訪祭礼の変化の多くは、この努力と工夫によって生じたものである。最終的には昭和二五（一九五〇）年の祭礼において従来の山車巡行が廃され、各町の山車は神輿巡行から完全に分離するに至つた。都市の特徴や祭礼運営主体の特徴というよりも、むしろ祭礼そのものが孕んでいた物理的・時間的諸要因によって山車巡行が神輿巡行から分離したといえる。